

各部会における協議内容の報告

結婚・子育て支援部会	．．．．．	1
ワークライフバランス推進部会	．．．．．	3
若い世代部会	．．．．．	5
こども計画策定部会	．．．．．	7

1. 少子化対策全般について

- ・「経済が良くなる、1人当たりの収入が良くなる」、これが一番結婚や子どもを生み育てる気持ちになれるため、結婚～子育てに対して、経済が大きなファクターであることは間違いないが、「子どもを生み、育てることが非常に素晴らしいこと」「人生にとって大きな意味があること」、そのような意識を持ってもらうような活動が大切ではないかと考えている。
- ・理想的には、「県内の若者が結婚～出産する」ことが一番だとは思いますが、現実には難しい部分もあるため、「子育て世代の移住促進」などに舵を切ってみることも即戦力につながるのではないかと。
- ・県内の生徒、学生は、高知県外に目が向いているが、もっと「高知の企業の魅力」「高知で働く魅力」を教育現場から伝えていけるとよいのではないかと。行政の中で横との連携をとりながら、少子化対策、外に出て行く人を減らすような施策などをできないかと感じる。
- ・若者の出会いや結婚など、危機感を持って、様々なところに我々ができるだけ支援をしていきたいと訴えていきたいと思う。

2. 「出会いの機会の創出」「結婚支援の推進」について

〈人口減少対策総合交付金の活用〉

- ・ここ数年、子育ての現役世代への支援策(児童手当の所得制限撤廃、市町村による通学定期の補助等)は多くなっていて、十分とは言えないが充実してきているため、人口減少対策総合交付金の制度は、「出会いの機会の創出」や「結婚支援の推進」に重点を置いてもらえればとよいと考えている。

〈若い世代への情報発信〉

- ・若者(学生)にとって、行政の情報は決して興味がないわけではなく、「関心があるけれどほとんど届いていない」状況にあるため、県としても情報発信の仕方を工夫をしてほしい。

〈職場等の現状〉

- ・職場でも半数くらいが未婚というのが現状、それぞれが結婚にむけた活動をしたらよいと思うが、なかなかそれができないようである。

〈多様な交流機会の創出〉

- ・日常的に人と接する時間が少ない業種の人たちは対面での交流が苦手な人も多いため、「メタバースプラットフォーム」を活用した「出会い・結婚支援」については非常に興味深い。
- ・「バーチャル婚活イベントってどんなのだろう」とわくわくした気持ちになった。若い世代にも勧められそうな取り組みもあるようなので、期待をしている。

3.「安心して妊娠・出産・子育てできる体制づくり」について

〈高知県の子育て環境〉

- ・高知県は、色々と細かい問題はあるかも知れないが「子育て」に向いている県だと思っている。周りの子育て世代の子育てに対する意見も前向きなものが多い。

〈職員の研修機会〉

- ・保育所や幼稚園は多くのパート職員に支えられて一日の保育を実施できているというのが現状だが、長年人手不足等によりパート職員までの研修機会が非常に少ない。今後、県に協力してもらいながら、全ての職員が、講師から直接話を聞く等の研修を実施できるように現場でも動いていきたい。

〈体調不良の子どもへの対応〉

- ・今、子育てする中で近くに小児科が少ないというのが現状。これから「子どもを増やす」というのであれば、小児科も増やす必要がある。「病児・病後児保育」というものもあるが、到底保育園では対応しきれないため、そこを小児科とつなげるような政策を行っていただきたいと考える。
- ・子どもが体調不良になった際に、仕事の関係ですつと動けない場面もあり、「すぐに迎えに来て」というのは難しい問題なのではないかと思う。できれば学校と同様に、保育所等にも保健室や看護できる方がいてくれると助かるというのが実感である。

〈不登校等の子ども・親御さんへの支援〉

- ・ここ最近、不登校や人とのコミュニケーションが上手くとれない、自己肯定感が低いといった悩みを抱えている子どもが増えてきている。思春期ならではの悩みを相談する場所として「PRINK」もあるが、自分の殻に閉じこもっている子どもやその親御さんが「いつでも来ていいよ」「大丈夫だよ」と後押ししてもらえる場所として「地域子育て支援センター」も窓口になってもらえれば、もっと気楽な感じで相談に行けるのではないかと考えている。

〈若い世代へのプレコンセプションケア〉

- ・若い世代へのプレコンセプションケアの取り組みについては、非常に良い取り組みだと感じる。SNS等を上手く活用して、教育委員会と連携して周知してもらえれば、効果も出てくるのではないかと。

〈住民参加型の子育て支援〉

- ・老人クラブでは、東部地域などで廃校を活用した世代交流として、「高齢者と小中学生の交流」や「子育て世代のお母さんたちが悩みを打ち明ける」といった取り組みをされているようなので、こういうことも各地域で取り組んでもらいたい。

1. 少子化対策全般について

- ・少子化対策の視点だけ、WLB 推進の分野だけではなく、「元気未来創造戦略の全体像」の取り組みを進めていかないと、なかなか進んでいかないのではないかと。全部が全部関連しているが全体像が見えにくいため、パス回し的な関連表があればわかりやすい。
- ・これから人口減少が進む中で、「高知県はどうあるべきか」を県が大きな指針として示していくことが大事であり、それに対して、皆がどう取り組んでいくか、また危機感を持つこともできるのではないかと。
- ・人生はパートで分かれるものではなく持続的に歩いていくものであるため、人生のどのポイントでどのような支援やサポートがあるのかを、もう少しわかりやすい形で県民に示すことで、制度の利用やサービスの活用に繋がるのではないかと考える。
- ・「婚姻数を増やす」だけ、「若者の定着」だけではその先につながらないため、様々な施策に取り組んでいくことは大切であり、それぞれの施策の横の連携をうまく繋げていけば成果として上がっていくのではないかと感じる。
- ・今回の部会で、他団体から貴重な中身の濃い、分析した話をいただいたので、これを参考に、今後、活動を進めていきたい。

2. ワークライフバランス等の推進について

〈若い世代の WLB にむけた環境整備〉

- ・現状働いていない有資格者の掘り起こしや短時間でも働いてもらえる人を確保しながら、若い方々にとって融通が利く職場、働き続けられる職場づくりを行っていききたい。県としても、経験と資格がある人が、働きながら若い方々の WLB を支えていくのだという機運をメッセージとして発信してほしい。

〈企業の対応、企業への支援〉

- ・WLB が進んでいない企業には人が集まらなくなっていて、企業が生き残るためには絶対に取り組まなければならない状況のため、その部分をもう少し意識づけていく必要がある。
- ・これまであまりなかったが、ここ 2 年ほどで出産・育児休暇、男性職員の育児休暇等の事案が発生し、制度を取り入れながら対応している。特に小規模事業者でいうと実際に対応が追いつけなくなることもあるが、そのような事態が起こった中でも、支援をしてほしい。

〈法整備の状況〉

- ・令和 7 年 4 月から、改正育児・介護休業法が順次施行され、「育児期の柔軟な働き方働き方を実現するための環境整備」と「男性の育児休業等の取得状況の公表義務の対象が従業員 301 人以上の企業となる」という規定が設けられる。

3. キャリア形成の支援について

〈キャリア形成支援の取り組み〉

- ・ 高校生を対象に、看護職になるための説明会や県内の病院等での体験実習を実施している。看護職になっていただくために事業を行っているが、将来、「高知県内で働く」という意味についても、もう少ししっかり伝えていきたい。
- ・ 高校生が「ものメッセ KOCHI」に参加させてもらったり、県工業会の協力により各学校で企業説明をしてもらったり、と県内にある魅力ある仕事を理解していただく取り組みを進めている。
- ・ 高校生が県内の企業に就職しようとしたときに「魅力のある仕事」「魅力のある職場」とはどのようなものかを企業が共有しておかなければ、なかなか就職に結びついていかないと思う。

4. 「安心して出産、妊娠・子育てができる」体制づくりについて

〈育児休業の取得について〉

- ・ 育休復帰後の1年は、キャリアチェンジや働き方のチェンジを求められるところだと思うが、そういう中で、結局仕事をしたかったけれど辞めて家庭に入る選択をする女性もまだ多いため、そのような方々にも目を向けて、県内企業全体の取り組みができたらいと感じた。
- ・ 育休取得にあたり、事前に当事者への意向確認や個別の周知を行う必要があるが、「会社のこういう制度がある」「社会保険はこうである」といった話と併せて、高知県にはこういう支援や取り組みがあるという部分の話をすることができれば、「関心があるけど知らない」といった部分を少しは改善できるのではないか。

〈分娩施設の体制づくり〉

- ・ 県では、西部や東部の方が出産する場合、出産施設の近くに宿泊するといった支援などもされているが、それ以外にも根本的な解決として、「安心して出産、妊娠・子育てができる」ように、分娩施設を中心部だけでなく様々な地域に展開する体制づくり(医師の確保など)を、受け入れ側でも、徐々に進めていく必要があると感じている。若者の施策だけではなく、受け入れ側の体制としてどのようなことに今後取り組めるかについても進めていってほしい。

【若い世代部会報告】

主催事業について（座談会及び異業種交流会）

令和6年度は、県内在住の若者の「出会い・結婚」に関する等身大の考えを知事らと語り合う「座談会」と、多様な業種の独身者が出会いと交流を楽しめるイベントを昨年度に引き続き実施した。

令和7年度は、座談会をメイン事業として実施することとする。

○1. 令和6年度事業報告（座談会）

【開催日・会場】

令和6年9月11日(水)午前11時～12時 知事公邸

【参加者】

県民会議側（3名）

- ・高知県商工会議所連合会会頭 西山 彰一
- ・高知県知事 濱田 省司
- ・高知県市長会 会長 桑名 龍吾（高知市長）

県民参加者（8名）

- ・県内在住の20代前半～後半・30代の独身者7名、既婚者1名
（女性4名 男性4名）

【座談会内容】

若者からは、地域活動など同じ目標にむかって活動する中で自然と出会いにつながる場の必要性などが伝えられた。また、結婚に対して、自身をとりまく経済状況や社会的な不安等があることも語られた。

県民会議側の諸先輩の方々からは、高知で結婚・子育てする良さ、高知の人(特に男性)の魅力、日常の中での出会いや縁の広がり大切さについて、前向きな意見やアドバイスがなされ、参加者からは、今後の出会いや結婚に対して前向きになれた、自分の意見を伝える良い機会になった、などの声が寄せられた。

○令和7年度の「座談会」について

◆テーマ（仮）

「高知の魅力」などについて、若い方の声を聞く。

◆県民参加者

UIターンにより高知県内に移住してきた若者

◆アウトプット

知事等との意見交換を実施する。

○ 2. 令和 6 年度事業報告（異業種交流会）

【イベント名】

スポーツ&BBQ コン 〜めっちゃ盛り上がる!? 肉と運動会の宴〜

【開催日】

令和 6 年 11 月 23 日（土） 13:30～20:00

【会場】

高知県立体育館補助競技場、高知大丸屋上「バーベキューパラダイス」

【参加者】

20 歳～おおむね 40 歳までの独身男女

【参加者数】

男性 14 名／女性 13 名 27 名（※参考 令和 5 年度は 40 名）

【参加費】

3,500 円／人（B B Q の飲食代金として参加者の実費負担）

【異業種交流会内容】

継続的な交友関係の維持につながることを目的に、運動会と B B Q を実施した。運動会では、初対面の参加者が打ち解けられるように、部会員が、各組のリーダーとなって、参加者同士の交流を促した。また、B B Q では、時間を区切って参加者にテーブル移動を促し、他チームの参加者とも交流する機会を創出した。

○ 令和 7 年度の「異業種交流会」について

◆ 実施について

これまで 3 年にわたり継続して異業種交流会を開催し、若い世代部会としては、一定のノウハウができたと判断したため、令和 7 年度は、地域活動や交流イベントを行っている地域の団体に業務を引き継ぐこととする。
また、引き継いだ団体が異業種交流会を開催するにあたっては、若い世代部会が全面的に協力することとする。

【こども計画策定部会報告】

別紙４－１、４－２

以上